

前橋市は 起業や就職を目指す人を応援します

前橋市では、起業・創業など、新たにビジネスを始めようとしている人や、就職しようとしている人を支援します。詳しくは問い合わせてください。

問い合わせは 起業・創業支援などについては 産業政策課 ☎027-898-6983
就職支援などについては 同課 ☎027-898-6985

起業・創業・新規事業などの支援

交流をとおり起業を学ぶ

若者が社長になるセミナーを開催。起業家と交流しながら起業について分かりやすく学びます。

日時＝11月3日(月)午後1時30分～3時30分

会場＝前橋プラザ元気21内51学習室

対象＝起業に興味がある人、先着30人

申し込み＝10月30日(木)までに産業政策課へ

創業のワンストップ相談会

「創業支援・まえばし活性化！よろず相談会」を開催します。市内で創業に挑戦する人や創業間もない人を、まえばし創業支援ネットワークの10機関がサポート。創業に関するさまざまな悩みに対し、各分野のプロがお答えします。気軽に相談してください。

日時＝10月24日(金)午後5時～9時

会場＝前橋プラザ元気21 1階にぎわいホール

対象＝市内で創業を考えている人か創業3年以内の人

参加団体＝市産業政策課・にぎわい商業課、日本政策金融公庫前橋支店、前橋商工会議所、前橋東部商工会、富士見商工会、前橋起業支援センター、県中小企業診断士協会、関東信越税理士会前橋支部、県社会保険労務士会前橋支部、県行政書士会

申し込み＝10月20日(月)までに日本政策金融公庫前橋支店☎027-223-7312へ

就職・再就職の支援

就職内定のノウハウを学ぶ

まえばし就活実践塾を開催。履歴書の書き方や模擬面接などの実践的な講座をとおり、内定獲得へ向けた就職活動の進め方を学びます。

日時＝10月20日(月)～11月5日(水)の月水曜5回、午後

6時～8時

会場＝市役所

対象＝39歳以下の求職者、先着20人

申し込み＝産業政策課へ

夢の創業をサポート

創業支援塾を開催。創業のためのノウハウを専門家から学びます。講座に8割以上出席した人には認定証を発行。初めて創業する人は、認定書で登録免許税の減額などが受けられます。

日時＝11月8日(土)～12月7日(日)の水土日曜5回、午前

9時30分～午後4時30分(水曜は午後7時～9時)

会場＝前橋プラザ元気21内57学習室

対象＝市内で新たに事業を起こそうとする人か市内で開業後5年以内の人、先着30人

申し込み＝11月4日(火)までに産業政策課へ

産学官金連携で挑戦を支援

産学官金連帯フェスタを開催。企業の課題解決や新しい挑戦のために、大学や高専、研究機関などを活用してみませんか。最新研究や産学官金連携の事例紹介、情報交換会などを行います。

日時＝11月10日(月)午後2時30分～6時30分

会場＝前橋テルサ

対象＝企業の経営者・開発担当者など、先着80人

申し込み＝10月31日(金)までに産業政策課へ

子育てママと企業の交流

子育て中の女性の再就職を支援するために、企業の人事担当者や働く女性との交流会を開催します。

日時＝11月11日(火)午前10時～午後0時15分

会場＝前橋プラザ元気21

対象＝再就職を目指している子育て中の女性、先着20人

参加企業＝群馬ヤクルト販売、新進、大同生命保険、日新電機

その他＝託児あり

申し込み＝産業政策課へ



前橋の製糸業を語る平野さん

1859年の横浜開港に伴い、生糸貿易が開始されました。当時、欧州で蚕の病気が流行していたこともあり、日本の生糸は飛ぶように売れ、その中でも前橋から運び込まれた生糸は横浜での取引価格の基準になるほど高

い評価を得ていました。あまりにも生糸がよく売れていたため、粗悪な商品も出回るようになり、横浜の外国商人が明治元年に残した資料には、「日本の生糸は年々品質が低下している。提案に仕立て上げ、上州前橋信州の糸に似せて紛れ込ませて売っている」などと記録されていました。なお、日本の生糸は産地により東ね方が異なり、前橋や埼玉県、長野県などで生産された生糸の結束は「提糸造り」といわれていました。品質が低い生糸が輸出され外国からの苦情が相次いだため、生糸の生産者は生糸に商標を貼ることにしました。これにより、生産者は自分の生糸の良さを市場にアピールするとともに、市場との緊張関係を保ちました。

「花燃ゆ」放映決定記念企画



あなたの疑問に答えます！

平成27年NHK大河ドラマ「花燃ゆ」は、吉田松陰の妹で、初代群馬県令・榎取素彦の妻となる文が主人公です。このコーナーでは、「花燃ゆ」に関する皆さんの疑問に答えます。

Q. 文が育った杉家はどんな家庭だったの？

A. 杉家は、萩藩（現在の山口県萩市）の禄高26石の下級武士の家でした。父の杉百合之助と母の滝、2人の間には男3人、文を含めた女4人の7人の子どもたちがいました。貧しい生活を支えるため、父の百合之助は畑仕事、母の滝は機織りなどをして大家族を支えました。百合之助には、農作業をしている間、子どもたちに本を朗読させ、それを聴きながら畑を耕したというエピソードも。また、滝はおおらかで優しく、子ども思いだったそうです。松陰が安政の大獄で処刑される直前、滝は風呂に入った松陰の背中を流しながら「どうか無事で帰ってきてほしい」と声を掛けました。松陰は「親思う心にまさる親心今日のおとずれ何とときくらん」と詠み、父と母に対する感謝の思いを死の1週間前に残しています。

第11回テーマ 前橋市の文化財
講師 前橋市文化財保護課長・小島純一

文化財の種類を大きく分類すると、建築物などの有形文化財や演劇などの無形文化財のほか、民俗文化財、記念物、埋蔵文化財など8種類あります。前橋市の文化財は平成26年4月1日現在で国、県、市指定合わせて348件あり、比較的史跡が多いことや、日輪寺（日輪寺町）の十一面観世音像や無量寿寺（二之宮町）の地藏菩薩立像など、赤城山信仰に関わる文化財が多いという特徴があります。また、市内には近世大名の墓が3カ所（酒井氏、秋元氏、牧野氏）あります。これは県内では前橋だけです。

臨江閣本館と茶室はそれぞれ県の重要文化財に、別館は市の重要文化財に指定されています。別館は明治43年に建てられたため、榎取ゆかりの建物で現存するものは本館と茶室のみとなっています。

なお、茶室は「畊堂庵」と呼ばれていますが、元々名前はなく、平成20年の全国都市緑化フェアの開催に合わせ市民の愛称として命名。榎取素彦の号である「畊堂」に由来します。



前橋市の歴史文化遺産を活用した地域づくりの担い手となる「前橋学市民学芸員」養成講座(第1期)を11月まで開催中。このコーナーでは、すでに開催された講座内容の一部を紹介します。第2期は来年1月に開講予定。詳細は決まり次第お知らせします。

問い合わせは
文化国際課 ☎027-898-6992



臨江閣本館